

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 4 6	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Concurrent and simultaneous drug and alcohol use: results of the 2000 National Alcohol Survey. 薬物とアルコールの併用と同時摂取：2000 National Alcohol Survey の結果	
執筆者	
Midanik LT, Tam TW, Weisner C.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Drug Alcohol Depend. 2007 Sep 6;90(1):72-80.	
キーワード	
マリファナ、薬物、併用、同時使用、抑うつ、アルコール依存	
要 旨	
<p>目的： 米国における薬物とアルコールの併用・同時摂取の頻度と関連要因、健康への影響の評価</p> <p>方法： 2000 National Alcohol Survey のデータベース(n=7612)を用いた。過去 12 ヶ月のアルコールおよび薬物摂取状況を評価した。薬物を服用している飲酒者には、アルコールと薬物を同時に摂取するかどうかを尋ねた。</p> <p>結果： 約 10%の飲酒者が過去 12 ヶ月の間にマリファナを使用しており (=併用)、7%がアルコール飲用とマリファナ使用を同時に行っていた (=同時摂取)。飲酒者の約 5%が過去 12 ヶ月にマリファナ以外の薬物を使用しており、1.7%がアルコール飲用とマリファナ以外の薬物使用を同時に行っていた。30 歳未満であること、高等学校卒業未満の教育歴、決まったパートナーがいないこと、多量飲酒がアルコールとマリファナの同時摂取と関連していた (オッズ比および 95%信頼区間はそれぞれ、5.85, 2.72-12.58, 2.32, 1.48-3.64, 1.75, 1.28-2.38, 8.64, 5.84-12.79)。アルコールとマリファナの同時摂取は、社会的結果、アルコール依存、抑うつと有意に関連していた (オッズ比および 95%信頼区間はそれぞれ、3.21, 2.12-4.87, 3.55, 2.32-5.42, 1.79, 1.28-2.52)。</p> <p>結論： 本研究の結果は、アルコールと薬物を使用中で、両方への治療が必要な患者が徐々に低年齢化しているという日常臨床の状況を反映しており、アルコールと薬物の同時使用による健康障害の評価を含む調査の重要性を示すものである。</p>	